北海道支部の歩み

北海道はでっかいどぉ

48道支部が地域で頑張っています！

		北海道支部までの距	家での所要時間	近郊に出掛けると当日本部からどここんなとこまで行けちゃう場所
1	札幌			
2	函館(市)	323km	5時間10分	富山市(富山県)
3	釧路	140km	1時間49分	名古屋市(愛知県)
4	函館	309km	4時間17分	松江市(島根県)
5	中標	39km	47分	奈良市(大阪府)
6	江別	21km	33分	大津市(滋賀県)
7	はたなべ	251km	3時間35分	柳川市(福岡県)
8	苫小牧	62km	1時間07分	西宮市(兵庫県)
9	釧路	297km	6時間28分	宇部市(山口県)
10	弟子屈分	49km	1時間17分	奈良市(奈良県)
11	根室	447km	7時間25分	東京都
12	名寄	206km	2時間56分	鳥取市(鳥取県)
13	稚内	31km	38分	堺市(大阪府)
14	倉市	59km	1時間17分	天理市(奈良県)
15	美唄	165km	2時間29分	伊賀市(三重県)
16	北広島	19km	35分	大津市(滋賀県)
17	高砂	65km	59分	西宮市(兵庫県)
18	弟子屈	336km	5時間19分	富山市(富山県)
19	七飯	292km	4時間02分	静岡市(静岡県)
20	深川	110km	1時間25分	関ヶ原町(岐阜県)
21	富良野	116km	2時間02分	姫路市(兵庫県)
22	帯広	229km	3時間23分	岡山市(岡山県)
23	浦河	172km	2時間49分	福岡市(愛知県)
24	戸井	335km	4時間53分	高知市(高知県)
25	長崎	320km	4時間40分	松江市(島根県)
26	伊達	137km	1時間47分	和歌山市(和歌山県)
27	鹿追	136km	2時間48分	福井市(福井県)
28	広尾	269km	4時間09分	弟子屈(長野県)
29	小平	165km	2時間15分	伊賀市(三重県)
30	白	266km	3時間36分	弟子屈(長野県)
31	浦河	93km	1時間17分	明石市(兵庫県)
32	釧路(町)	333km	5時間25分	高知市(高知県)
33	恵庭	110km	1時間29分	津市(三重県)
34	当別	25km	41分	高槻市(大阪府)
35	足寄	242km	3時間36分	焼津市(静岡県)
36	帯広江	80km	1時間10分	神戸市(兵庫県)
37	上砂川	96km	1時間29分	五條市(奈良県)
38	新石	264km	3時間45分	弟子屈(長野県)
39	今金	238km	3時間19分	袋井市(静岡県)
40	八雲	230km	3時間05分	浜松市(静岡県)
41	新篠	120km	1時間49分	姫路市(兵庫県)
42	神川	87km	1時間21分	米原市(滋賀県)
43	北見	310km	4時間29分	富山市(富山県)
44	枝内	97km	2時間08分	明石市(兵庫県)
45	厚岸	378km	7時間49分	松山市(愛媛県)
46	のかわ	79km	1時間09分	神戸市(兵庫県)
47	若年			
48	利尻富士	389km	6時間49分	甲府市(山梨県)

(北海道ナビ調べ)　(ナビタイム調べ)

北海道支部の歩み

1983年　北海道にも家族の会をの機運高まる

1984年　北海道ぼけ老人を支える家族の会の前身が札幌に設立

1987年　北海道ぼけ老人を支える家族の会の設立

1988年　北海道支部として承認される

　　介護体験集発刊（毎年12月に発刊中）

1991年　函館地区会がSOSネットをつくる

1992年　北海道へ要望書提出（以後2013年まで毎年提出）

1993年　家族介護者リフレッシュ事業開始（2000年まで）

1994年　術後老人SOSネットワークを釧路地区会が全世界へ発信

1997年　アルツハイマーデーで街頭活動開始(以後毎年)

1998年　「ぼけさん介護体験記」出版

2000年　グループホーム外部評価調査員として活動開始

　　「北海道・東北ブロック会議」開催（支笏湖）

2002年　「ぼけても安心して暮らせる地域づくり」シンポジウム開催

　　やすらぎ支援員を要請する痴呆介護サポーター養成講座開催

2003年　「痴呆と思ったら」出版

2004年　国際会議に北海道より38名参加

2005年　「介護に関するアンケート調査」実施

　　「認知症の人と共に暮らすまちづくり研修会」開始（以後、継続）

　　北海道との協働で「もの忘れフォーラム」開催

　　札幌市キャラバンメイト養成に協力

2006年　会の名称を変更

　　若年の会発足に協力

　　日本認知症ケア学会に協力

　　北海道知事との茶話会に出席

　　「北海道・東北ブロック会議」を開催（定山渓）

　　NHK厚生事業団「認知症フォーラム」に協力

　　「認知症？」出版

2007年　創立20周年記念行事を実施

2008年　「認知症の人と共に暮らして」出版

2010年　「北海道における老老介護の実態調査」に協力

　　北海道認知症コールセンターを受託

2012年　「若年性認知症実態調査」実施

　　「北海道・東北ブロック会議」を開催（札幌）

2013年　「若年性認知症受け入れ場所調査」実施

おらほ
青森県支部
の活動
リフレッシュ旅行
世界アルツハイマーデー
記念講演会
家族介護とその支援のあり方について
栄治・美保子の部屋
言葉より
心により添う認知症
つどい
こなゆき
支部結成総会 開催
青森県支部結成をよろこぶ!
認知症ほっと三行レター

岩手県支部

岩手県支部のあゆみ

支部発足：1997年6月8日

設立の経緯：
現在事務局となっている医療法人（北上市）にて、「痴呆老人を抱える家族の会「わかばの会」」1994年11月に発足。
その後全県へ拡大。

常設電話相談室

リフレッシュ旅行開催
今年は２０名で花巻温泉へ行きました

若年性のつどい
宮古市浄土ヶ浜にて開催（2014. 9. 27）

岩手県支部総会

アルツハイマーデー街頭行動（盛岡市）

認知症の人もそうでない人も
安心して暮らせる理想郷
私たちのイーハトーブを創ろう！！

毎月世話人会にて意見交換をしています

・気軽に相談できる場所
・気軽に集える場所
・いろんな立場の人とつながれる場所

そんな場所を目指して行っています。
そして認知症について当事者・家族・いろんな立場の人たちが繋がれば出来ることはたくさんある！！
そのように思っています。

宮城

宮城のあゆみ

1995(H7).10.29
宮城県支部結成総会

1996(H8).7.1
宮城県より「痴呆性高齢者介護家族支援事業」の委託を受ける

1996(H8).7/25
委託季刊誌「なみき道」第１号発行

1996(H8).9.29
第１回リフレッシュ１泊交流会

1999(H11).10.2
世界アルツハイマーデー記念講演会
「父、丹羽文雄介護の日々」本田桂子

2002(H14).8/.7-9
宮城県知事、仙台市長へ「介護保険見直しについて」要望書提出

2004(H16).1.17
「若年性痴呆の現状と啓発について」シンポジウム開催（120名）

2004(H16).10.10
仙台市から電話相談及び個別相談業務の委託を受ける

2004(H16).12.2
仙台市内５区で“ちょっと気になるもの忘れ”個別相談会開始

2005(H17).10.29
支部創立10周年記念講演会高見代表講演（210名）
10周年記念誌“道しるべ”発行

2005(H17).11.30
支部会員200名大台突破215名となる

2006(H18).1.27
“男性介護者のつどい”開始

2006(H18).2.9
“若年性認知症介護者のつどい”開催

2006(H18).9月
「若年認知症のつどい“翼”」を世話人有志で開始

2009(H21).5.2
「若年認知症のつどい“翼”」を宮城県支部へ移行

2009(H21).7.12
本人ネットワーク支援・東北ブロック交流会を開催（参加者42名本人９名を含む）

2010(H22).3.25
「かぞくはいま…」小冊子発行

2010(H22).11.14
「全国研究集会」開催（全国から952名参加）

2011(H23).3.11
東日本大震災発生

2013(H25).10.31
仙台市長に市立病院の「認知症疾患医療センター」の長期休診に早期開設要望書を提出

2014(H26).10月
現在、会員数266名　世話人25名

第26回全国研究集会
（2010年11月）

若年認知症のつどい翼合唱団

東北ブロック本人交流会

アルツハイマーデー行動

刊行本

つながる絆 ひまわりの輪

秋田県支部

1989年 今村病院病棟に「ひまわり会」誕生.

1993年 「全国呆け老人をかかえる家族の会」に加入する. 秋田県支部となる.

2006年 「認知症の人と家族の会」と名称変更.

2009年 事務局(所)を病院から移転する. 自立した運営体となる.

2012年 事務所を再移転する(秋田市内).

2014年9月 支部会報ひまわり 第100号発行.

代表 佐藤敦子・世話人9名・監事1名

つどい

世話人会

協力

講演

交流

街頭活動

リフレッシュ旅行&ミュージカルけんない

アルツハイマーデー

ハッピーだね

介護・看護専門職のためのターミナルケア

今山先生 研修講座

記念講演会

ぼーれぼーれ

秋田県支部

Yamagata 山形

1. 支部のあゆみ

私たち山形県支部は、本部の設立から7年後の1997年10月10日、全国の支部の13番目に誕生。当時本部事務局長の三宮青人氏を迎えての記念講演でした。設立準備には、かつて第3期支部で「家族の会」活動経験のある柳生京子氏に出席に頼られて、当時の山形県の現状から支援活動の必要性を熱心に呼びかけ、発足しました。当初事務局は県医師協会と精神老人ホーム「雄工やすらぎの家」の2つで職員の八鍬博子氏と山本康子の2人が事務局員として、県保険医協会理事長でやはこ赤神病院医平沢敏氏、神経内科医大島秋彦氏、老人福祉施設職員の事務市役氏、介護経験者で現在認人の同職として手伝うで発足、23年前入ってきた上台としてここに記します。

本部が30周年を迎えた今年は、山形県支部設立13年目、今新たな時期に立っています。2005年から現在の5年間の事務局子役認人代表を中心とした県支部の変を振り返ってみます。

会員もそれぞれが年を重ねていく中で県支部の強大な存在の義務ふみさんは、毎月の集いから当時、自宅で会を見守ることとなった。その寂しさに重ねて、元世話人代表で会報担当の嶋沢明夫氏は「今年からは世話人から解放され自由に会活動に参加したい」と宣言、いつもの嶋（「へにばな」の編集会議では、なごやかな作業で、ついおしゃべりに興じてくると、厳しい目で誤字脱字をチェックしている嶋沢氏がふっと見上げるだけでさっと作業再開となる光景が蘇ってた。神奈川県に比べ本人一部制代表者による人の世話人が家族家本人の健康とお嶋沢小会を通じ会となりました。今後は、これまでの支援活動を土台に今、必要とされている「認知症に優しくて安心して暮らせる地域」に向けて地域に動いていくことにあります。そのような中での明るいかやキなお出来事は、2007年の秋、支援の県支部事務所を社会福祉法人「緑光福祉会」よりご無償で1室借り受けて新たなスタートをきった事と機能しなくなり会報発行が出来ないでいた印刷機が山形新聞社より贈呈されたことです。贈られてきた環境の事務局を軸としてどう活動していくか今年度より若い世代の支部事務局会体制も出来て、あゆみはじめている県支部のすがたです。

2. 活動内容

山形県支部の活動は、設立当初より三本柱をおかれての活動指針としてきた訳りがあります。そのひとつは毎月の集いに参加できない会員家族の支えとなる県支部会報「へにばな」の毎月の発行。そのほか、「電話相談」、かつては県支部の支部役話人自宅電話を公表してリストも印刷して、各地域の世話人が相談を受けていたほどでした。時代の移り変わりや個人情報保護等から事務所の電話を活用しています。そのほか毎月欠かさず開催の「山形の集い」です。会場は、毎月第四土曜日の午後2時より4時の2時間と開設に家族ぐるしく、誰でも自由に参加してもらえるように「認知症の人と家族の会」という表社名をもって会場を準備し、会員や集い参加ゆ知って初めて参加の方を迎えます。

この3本柱の活動のほかには、講演やパネリストとして、県や市町村の各種会議に参加し意見を述べていくことも大切な活動としています。また毎年、県に対して要望書を提出し、「認知症の人への理解とそのための予算化」等要望を述べその上で県社協を通じて県知事代表等出席で県担当部課長等と懇談会で訴えています。

会員ひとり一人が集合あることに本部からのリーフレットや県支部会報を携えて「ひとりで悩まないで」と声をかけ「認知症の理解」を伝えていることも地道な会員の非常活動です。

3. 今後の課題

山形県は支部設立当初、三世代同居率33.3%、その後約20年経過した2005年の調査でも依然全国一位で34.3%という結内が中で活動を継続していて、家族の会で明るくいるだけでも安心して暮らせるとの会に活動している現状も、集いや電話相談の支援の大切な活動で社会的にもわかっています。

そのような中で、会員様に世話人等の年を重ねている事や健康上などの理由から会全体の活動が縮小になっていることが大きな課題です。

その認知症も会員を増やし、看取り終えた会員も継続して貴重な経験を社会に伝えていくことができるように支援していきたいものです。

また、県支部の重点活動として掲げてきた本村の「会報発行」の編集担当のあかったが「県支の集い」の準備不能、「電話相談」と事務局当番の担当を世話人全体で分担できる体制の確立を目指し組織化してきたことの有機能の時期に来ています。有機能のもう口とつには、若い世代の会の活動に寄せられるも介護家族や認知症の人本人の熱い期待に寄り添いとともに学び合う気持ちが会員一人ひとりに問われています。

ぽ～れぽ～れ 山形県支部版 へにばな

山形県吉村知事、細谷副知事、県幹部職員がそろって「認知症サポーター」に！

▲オレンジリング贈呈式

山形県支部第25回定期総会・記念講演会・そして「山形のつどい」を開催！

2014年度世界アルツハイマーデー月間～山形

今年の日本での標語は「認知症　見守る地域に　つながる絆」

1994年国際アルツハイマー病協会(ADI)が認知症への理解をすすめ、本人や家族への施策の充実を目的として毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」として2012年からは9月を世界アルツハイマーデー月間として、世界各国で啓発活動が行われています。山形の活動をご紹介します。

嶋、山形市の職員のみなさん、製薬会社ユーディ、ヤンセンファーマの方々と一緒に一声かけながら認知症の理解を伝えました。

第20回 2014年度 北海道・東北ブロック会議にようこそ

山形日和。

満面の笑顔で記念撮影をしました

▶次部関係者のごあいさつがありました

平成 1年9月～19年3月 まで「つどいの歌」として会員の「森屋 ふみ姫」が200曲を作成された「心に太陽を Ⅰ～Ⅲ」

心に太陽を

「森屋 ふみ姫」が200曲を作成された「心に太陽を Ⅰ～Ⅲ」の「もくじ」

呆け老人をかかえる家族の会 山形支部結成

昭和62年6月 早川一光先生が講演されたのがきっかけで山形県に「呆け老人を抱える家族の会」山形支部が発足しました。

呆けはもうこわくない！

平成 4年10月 会報の手づくりによって「呆けはもうこわくない」パート2 が出版されました。

呆けはもうこわくない

!! 平成16年「第20回国際会議・京都・2004」の思いで !!

Certificate of Attendance

福島県支部 since 1985

今年、３０回目の総会を行いました

県支部のあゆみ

福島県支部は1985年の設立から数えて今年5月で30回目の総会を迎えました。

誕生からの創設期（1984～1995）

福島県支部は1984年に準備会が福島県保健医療協議会に諮かれ、会員・家内等準備本部作りを経て、翌1985年5月に多くの関係者、保護課、介護家族が集まり、設立総会が開催されました。当日博之保健医療局長挨拶なども与り会員科長下で内容ートでした。本部の活動を受け入れながら設立当初から家族の会の柱である、つどい、相談、会報をベースに地域との連携を強めながら活動の幅を広げました。

- 第1回一泊交流研修旅行を磐梯熱海温泉で開催
- 設立7年目に東北で初めての全国状況実会開催
- 県支部独自の「介護者の願い十ヶ条」作成

介護保険制度とともに（1995～2005）

高齢化、核家族化による家族介護の限界、高齢者問題の問題や社会保障制度所掌の必要性から介護保険が成立、運営が始まりました。しかし現実に即していない対応に国や社会に家族を訴える活動も始まりました。

- 会が社団法人化、会報「老人とともに」から「ぼーれぼーれ」に
- 機関紙から認知症へ変更、治療薬（アリセプト）が使用許可に
- 京都でアルツハイマー病協会国際会議が開催（県から30名参加）
- アルツハイマーデー記念講演会で映画「折り鶴」上映
- 「認知症サポーター」制度が誕生

認知症から認知症に、認知症新時代へ（2005～2014）

「家族が老人をみる」から「家族の会」から「認知症の人と家族の会」へ名称変更。介護者の会員も変化し、配偶者の介護や男性介護者が増え、介護者のうち、男性の比率が高くなってきました。本人が参加する機会も増えるように男性も増えるようになりました。本人が参加する機会も増えるように男性も増えるようになりました。本人交流会、傾一休、会合など様々な仕組みの方が中心になったうえ、ボランティアの方にもかかわれるようになりました。本人の視点で認知症が語られ、本人の発言がとともに深い時代へ入りました。

- 7つの生活圏域に地区会体制が整備、県内くまなく活動ができる体制に
- 全国会員が1万人を突破
- 高認知症コールセンター開設
- 本人交流会「風のつどい」開始
- アリセプトの他に新たにメマリー錠、レミニール、リバスタッチ及びイクセロンが使用許可に
- 東日本大震災・原発事故が発生
- 厚生労働省がオレンジプランを策定

写真は前列から設立総会、第1回一泊交流研修旅行、全国状況研修、国際会議での参加のポスター、都山地区会地域住民の講演の様子、本人交流会「風のつどい」

そして30年、そしてこれから…

認知症を取り巻く状況、風潮・思想事故からの復興はどうなるのでしょう。病気・症状への理解が深く、地区にとまどいと語りを織り無からた30年前、介護者にとって「家族の会」はたくさん支えでした。今、世間の理解も広がりを見せ、新聞、テレビでは毎日のように認識が高まり、インターネットや書籍を探せば迷うくらいの情報が溢れています。しかし、介護者の本人の思い、悩み、不安は生時から変わらないのではないでしょうか。最近入会された会員の方からも「自分の気持ちを聞いてもらいたい」、「同じ立場で介護している人の話が聞きたい」という声が聞かれます。電話を頼り、会報を読み、つどいに出かけることを通じ会に参加する中ゆるりは認知症を変わっていないように思います。福島県は震災で映画も終焉となり介護認定者が認知症になる方が急増しています。家族は大変辛く苦しい中ゆるりは認知症を「認知症になっても安心して暮らせる社会」に向けたあゆみをともに歩んでいきましょう。（会報2014年4月号より）

地区会構成

福島は広く3つの地域に分かれ風土はもちろんのこと、方言や文化も地域の特色のある県です。今はこの若い支部代表の大内定義さんが、各地区会の地域の特性やニーズに寄り添うつどいや相談会、認知症本人と介護者への理解など、きめ細かい対応ができるようにと、福島、郡山、会津、南会津、いわき、相双、県南の7地区に分けてくださいました。現在、南会津、いわき、相双、県南の7地区に分けてくださいました。現在も支部世話人会で情報を共有し、助言協力しあい、3月11日の大震災、いまだ終息しない原発を乗り越え設立30年を迎えました。

福島地区会　代表：井柏ユウさん
ひとこと：地域のための行政との対応やお年寄りついて、OB・OG 会の設置など、支部全体の要となるような活動しています。現在会員 200 名。行政、企業、家族など多方面への呼びかけをこれからも続けていきます。

相双地区会　代表：荒ヒサエさん
ひとこと：毎月第2月曜日は相談会、また隔月の第3土曜日にはそれぞれに悩みを抱える家族が集まりお互いに思いを共有しあえるつどいを開催しています。

会津地区会　代表：土屋みよ子さん
ひとこと：入会されたお母さんの話しを聞き、話しているだけで介護中でも参加できるようなつどいの方々と、そして、一人で悩まないで」と活動していきたい。

いわき地区会　代表：佐久間ヤス子さん
ひとこと：
いわき市や社協、医師会、地域包括のご協力をいただき、事を成し遂げる協力体制に感謝しながら地区会を運営しています。

南会津地区会　代表：青島ヤヨイさん
ひとこと：南会津地区会会員数は現在32名になっております。地区会活動は認知症の方家族と必要時会、施設のシーツ交換、寒方とも大変喜ばれています。会員数維持を目標に頑張っています。

県南地区会　代表：本田隆子さん
ひとこと：県内最後に設立した地区会も7年目になりました。毎月つどいを実施、数人の参加から徐々に増えつつあります。サポーター養成講座を毎年実施しながら会のPRをしています。昨年はアルツハイマーデー記念講演会、片山禎夫氏の話が好評でした。

郡山地区会　代表：渡辺恵美子さん
ひとこと：県中地域をエリアとし中核市である郡山市を中心に活動しています。つどいは月2回（第2土曜日と第4金曜日）。現在会員数60数名で会員拡大が今後の課題です。

県支部代表：佐藤和子さん
事　務　局：佐藤敏明さん
県支部世話人：18名（支部代表・地区会代表含む）

福島県

3月11日東日本大震災の際には全国の方からあたたかいご支援を頂きありがとうございました！

電話相談

お電話ください！

電話番号　024-522-1122

受付時間　午前9時～午後4時

「まさか…」の悩み、「もしかして？」の戸惑い、「どうすれば！」の悩み

お近くの家族の会地区会電話相談ダイヤルへ

福島市区会　郡山地区会　会津地区会　南会津地区会
いわき地区会　相双地区会　県南地区会

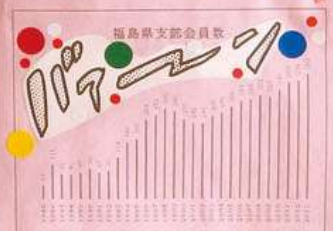
公益社団法人　認知症の人と家族の会　福島県支部
代表世話人　佐藤　和子

つどい交流会

9月・10月の各地区会活動のご案内

会員数

福島県支部会員数



【2013年度会員数】

会員数	個人会員	女性	男性	賛助会員
397	375	292	83	22
	構成比	77.87 %	22.13 %	

2014(平成26)年9月時点会員408名 目標達成しました！！
県内7地区会毎に目標を持ち、会員・行政・地域に寄して活動した結果、多くのかけ声の活動に目を向けてくださっています。
これからも本人・家族の立場で活動を続けていきます。

会報・記念誌等

福島県支部では結成から10年の節目ごとに記念誌を発行、今年30年誌を発行しました。また、震災の1年後には震災報告集を用意しました。会報は支部発足当初から現在まで294号を発刊しています。

茨 城 県 支 部

[三 本 柱]

○ つどい

つくば：第1(金) 家族の会主催
水戸　：第2(金) 県の委託事業
その他、行政主催の交流会に協力する形(県内2ヵ所)で活動中．他地域からの開催要請に今後どう応えていけるか、思案中．

○ 支部報

編集委員を中心に「愛される支部報」を目指している．カラー化も検討中．

○ 電話相談

月～金：12時～16時(県の委託)
昨年度の相談件数は214件

[通 常 活 動]

□ 第13回認知症フォーラム(12/7予定)

支部設立前年に第1回目をつくば市で開催．以来支部顧問(筑波大学)朝田隆先生の講演を中心に内容の濃い、茨城県支部の誇る行事になっている．つくばで11回．以後、県内各地での開催に挑戦中．

□ アルツハイマーデー街頭行動

つくば市のショッピングモールと水戸駅前で．家族、本人や学生さん、キャラバンメイトなども一緒に賑やかに．

□ リフレッシュ旅行

バスを借り切ってGO!
♨ 中心のゆったり旅

(*°▽°*)　ヽ(*´∀`)ノ　(*°▽°*)

[始めています！]

◇ 若年性認知症本人の会

昨年2月第1回開催．以来年2回を目指して若年性認知症本人の会を実施．呼びかけ方や人によるニーズの違い等課題は多いが、定例化を目指している．

◇ 黄色いレシート

地域の方々への「認知症の人と家族の会」のPRと活動費獲得を目指して、イオンの"幸せの黄色いレートの日"の活動に参加している．

◇ オレンジカフェ

今年6月より毎月1回のペースで牛久市の委託事業として活動開始．参加者の笑顔に支えられて頑張っている．他市でも開始予定．

[支部の課題]

・事務所移転4年目．財政運営・仕事の分担、自主的な支部活動の在り方等について見直し中．
・世話人の獲得、つどいの工夫、県内各地からの要望にどう応えるかetc・・・

他支部から大いに学びたい茨城です！

茨城県支部の歴史

・02, 3/28：第1回茨城県支部設立準備会(千葉県我孫子市にて・会員数 24名)
・02,11/10：第1回痴ほうフォーラムin茨城開催(つくば国際会議場)
・03, 6/12：支部設立準備会
事務局は筑波記念病院内に
・03, 3/22：本部理事会にて茨城支部設立承認
・03, 4/29：茨城支部設立総会(会員数 126名)
・03, 5/ 2：第1回世話人会・つどい開催(つくば)
・05, 8/ 6：関東ブロック会議(つくば国際会議場)
・08　　：水戸でのつどい開始(県の委託事業)
・10, 5月：家族の会事務所がつくば市大穂庁舎に移転．電話相談開始．
・12, 4/ 6：つどい、大穂庁舎からつくば市役所へ
・13, 2/15：第 1回若年性認知症本人のつどい
・13,12/ 8：第12回認知症フォーラム(県央,東海村)
・13,12～：支部活動見直しの話し合い活発化
・14, 4/11：イオン黄色いレシート還元団体に登録
・14, 6/10：オレンジカフェ開始(牛久市)
・14,12/7：第13回認知症フォーラム(県西,坂東市)
講師：杉山孝博先生「認知症の理解と援助」
朝田隆先生「認知力アップデイケアの考え方と実際」

世話人のはなし

顧問：宮本武憲

若年性アルツハイマーの妻とともにすでに十九年．茨城県支部の立ち上げから支部代表をして十年間．時は移り、人は変わり、組織も変わる．宮原代表の下、新しい体制で頑張ってほしい．
(絶望、されど、死んでしまってはおしまいよ．)私は、今も半分生きている妻を介護中である．

代表：宮原節子

「恐妻を 天使に変えた 認知症」(シルバー川柳より)．厳しい現実に向き合いながらも、笑顔を忘れずに過ごす糧になればと思う．介護実態の厳しさに追いつけない法の力、それだけに認知症の人や家族に寄り添い、支え合う地域環境づくりが喫緊・不可欠だと考える．認知症の人と家族の会も、社会資源の1つとして、力を存分に発揮したい．

副代表：柏木とき江

支部活動が今後向かうべき道、それは「本人から学ぶ」こと．日本で初めて公の場で本人自らが話をしたのは、平成15(2005)年「第2回 痴呆フォーラム in 茨城」であった．本人が運営に携わっての影響は大で、だれもが納得する．本人の参画を求めるなら、初期段階で、安心して登場できる環境作りが重要だと考えている．

世話人集合 "我ら茨城支部世話人ジャーナル"

来年 栃木県 おまちしています

アルツハイマーデー
街頭活動

リフレッシュ旅行（那須）

オレンジカフェ
石蔵

止まり木
（男の料理）

総会講演

つどい

栃木県認知症の人と介護者の会
平成17年設立

２００万円の助成金を活用し

1　若年性認知症の早期発見の啓発を図る目的で講演会を開催し県民の皆様に広くアピールしました。

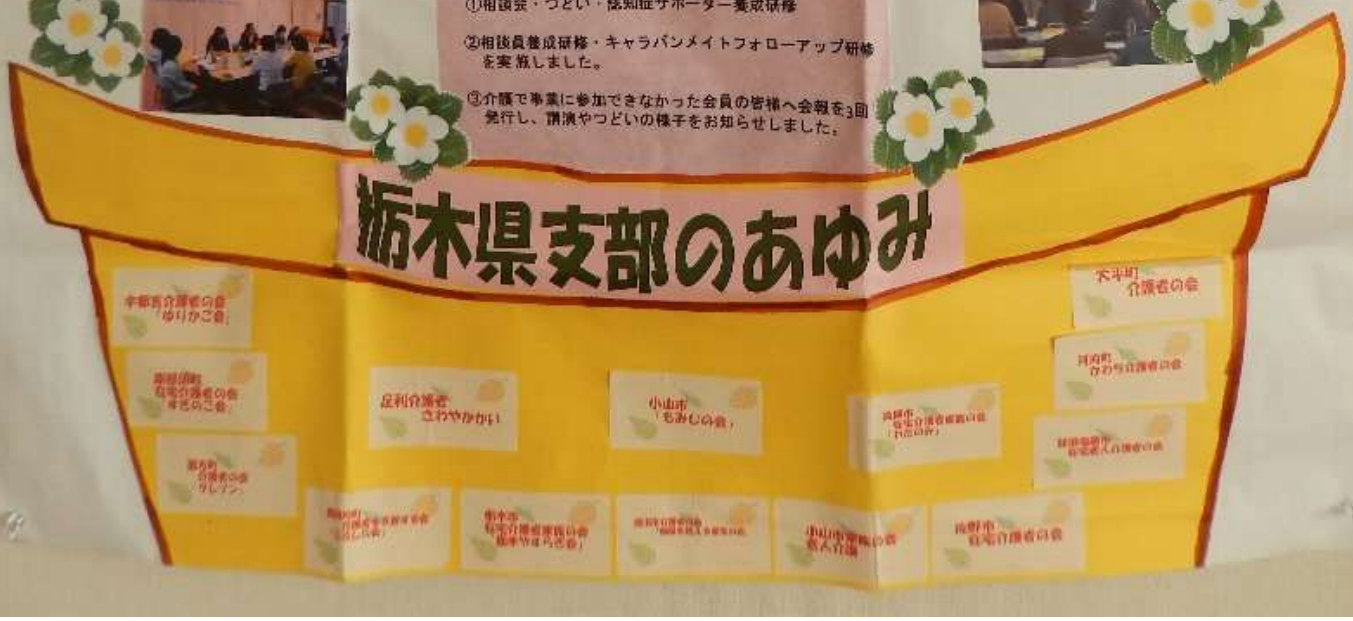
2．家族・地域支援を図る目的で県南・県北・県央で

①相談会・つどい・認知症サポーター養成研修

②相談員養成研修・キャラバンメイトフォローアップ研修を実施しました。

③介護で事業に参加できなかった会員の皆様へ会報を3回発行し、講演やつどいの様子をお知らせしました。

栃木県支部のあゆみ



富岡製糸場が
世界遺産に登録されました！

昔の富岡製糸場

現在の富岡製糸場

ぜひ見に来て下さい！

富岡製糸場以外にも…
草津や伊香保など温泉

下仁田ネギ、こんにゃく

上毛かるた、だるま

榛名山、赤城山、妙義山

などいろいろあります！

群馬県 & 群馬県支部 の紹介

【群馬県支部の活動紹介】

- 県内6ヵ所でつどいの開催
- 「ぽ～れぽ～れ」群馬県支部版「わたぼうし」の発行
- アルツハイマーデイ記念講演会の開催と街頭行動
- 家族支援講座の開催
- 認知症サポーター養成講座の講師
- 県内での介護や福祉にかんする会議への世話人の派遣・参加

【世話人紹介】
代表：田部井康夫

副代表：恩田初男
島村まつ代

総勢18人の世話人で
支部の活動を進めています！

埼玉県支部

埼玉県のマスコット「コバトン」

埼玉県の発注で認知症啓発パネルを作成

埼玉県民への認知症の理解・啓発活動のため、認知症関連の行事（講演会・研修会・地域イベント等）の際に、啓発パネルを展示するなどし、一層の理解・啓発を図れるよう各市町村へ貸し出す、11 種類の認知症啓発パネルを埼玉県の発注で作成しました。

番号	タイトル	内　容
1	認知症ってなに？	認知症の概要、認知症高齢者数
2	認知症の原因	原因疾患、メカニズム
3	認知症の症状	中核症状、行動・心理症状
4	認知症の予防・対策	認知症予防、早期発見・早期治療のすすめ
5	早期発見のめやす	早期発見のめやす（家族の会作成）
6	相談窓口・利用できる制度	行政、医療、家族の会の相談窓口、制度紹介
7	若年性認知症	概要、困難、発見の目安
8	本人と家族の気持ち	認知症の人と家族の気持ち、介護マーク
9	認知症の人への接し方	心構え、接し方ガイドライン
10	家族の会について	家族の会の紹介
11	認知症サポーター養成講座	オレンジリング・認知症サポーター証の紹介

「家族の会」について

埼玉県支部の歩み

年 月	主な動き	年 月	主な動き
1991 年 2 月	埼玉県支部準備会発足（埼玉県支部第1回つどい）	2002 年 2 月	事務局にパソコン導入、メールアドレス取得
1992 年 9 月	支部報「ふれあい」創刊	2004 年 10 月	京都国際会議2004に参加（支部展示　会員36名）
1994 年 8 月	嵐山町に事務局を開設	2005 年 8 月	県立大学と共催でアートセラピー講座始まる
1989 年 7 月	「埼玉の老人福祉を考える会」との交流学習会開催	2006 年 7 月	埼玉県より認知症理解普及促進事業を受託
1990 年 11 月	全国研究集会・代表者会議開催（大宮市）	2006 年 10 月	介護体験記集「ふれあう　こころ」発行
1991 年 11 月	支部10周年記念講演会「受け の人間学」早川一光先生	2008 年 4 月	支部報「ふれあい」に「修復」特集
1992 年 2 月	第1回介護家族一泊リフレッシュ研修旅行	2009 年 8 月	支部報「ふれあい」に「認知症の人と車の運転」特集
1993 年 7 月	世話人体制強化を図るため県内を7ブロックに分ける	2010 年 8 月	支部報「ふれあい」に「胃ろう」の特集（3号連続）
1994 年 2 月	第1回新年交流会を春日部市で開催	2011 年 1 月	第1回終末期を考えるつどい開催
1996 年 7 月	現事務所へ事務局移転　電話相談・来所相談事業開始	2011 年 10 月	支部30周年記念講演会 講師 早川一光氏・高見国生氏
2001 年 5 月	支部20周年総会・講演会「老人学」森修三大夫氏	2012 年 10 月	支部報150号記念「ふれあい」が届くまで
2001 年 7 月	第1回若年期痴呆介護者のつどい開始（現在年4回開催）	2014 年 3 月	第1回看取り後のつどい開催

各地のつどい紹介

支部のつどいを個別に紹介し、地区・開催日・会場・特徴などから、自分の暮らしに合った「つどい」を選択しやすいように冊子と地図にした。

埼玉県支部の三大つどい と、番外編

埼玉県支部では、ブロックの地区レベルで開催するつどい 14 件のほか、
全県レベルで開催するつどいが 3 件あります。
ここで紹介するつどいは、全県レベルで開催する 3 件のつどいです。

若年のつどい・結谷	終末期を考えるつどい	看取り後のつどい
【特　徴】 原則、若年性認知症のご本人と介護家族の参加です。ご本人同伴でも OK。遅刻早退気兼ねなくマイペースで安心して参加できる。 埼玉県立大学のボランティアによるサポートを受けています。	【特　徴】 在宅で、施設・病院で、最期を見送るために家族が心掛けておきたいことは何？　経験者を交えて一緒に考えます。元看護師の主任ケアマネ（世話人）が助言してくれ、このつどい 3 年間の話題を振り返って、連続ミニ講座も始まりました。	【特　徴】 2014 年 3 月から始まったばかりの、看取りを経験した会員さんが話し合う場です。亡くなった方への思い、残された家族のこと、自分たちの将来のことなど、自由に話せる場にするため、参加者が作っていく、これからのつどいです。

※三大つどいの番外編として、研修・意見交換会を兼ねた「世話人のつどい」も開催しました。

写真は番外編「世話人のつどい」の開催状況

手首のオレンジリングが輝いて見えます

秋の介護者リフレッシュ研修旅行

群馬県高崎市…はまゆう山荘 40 名参加

大型貸切バス旅行

全体研修と
グループワーク

初対面でも、共同作業ですぐに打ち解けた昼食の BBQ

電　話　相　談

埼玉県の木「ケヤキ」

埼玉県の花「ゆうラリウ」

埼玉県のマスコットキャラクター「コバトン」

県埼玉

千葉県支部

2013年度会員482名

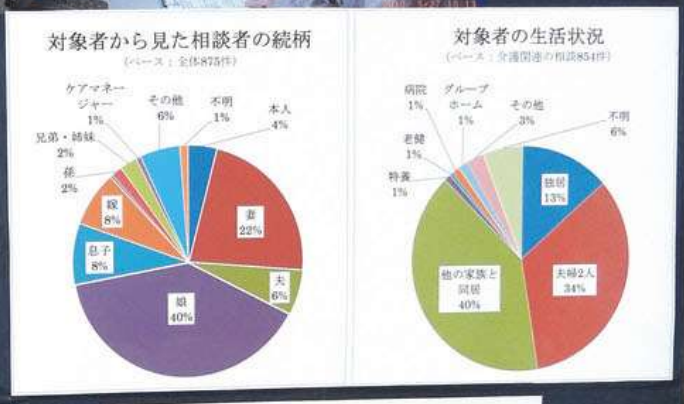
1980年10月25日25名で千葉県支部を結成

つどい

本人も参加して　楽しい時を

相　談

ちば認知症相談コールセンター



会　報

発送作業

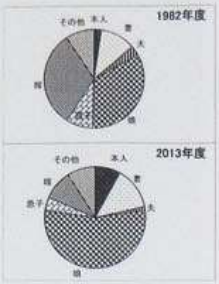
メモリーウォーク

東京都支部の動き

電話相談から見える変化　2013 年度

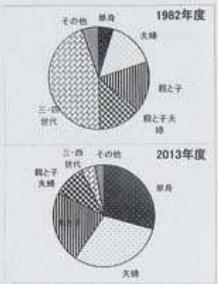
相談者と要介護者の続柄

	1982年度		2013年度	
	人数	割合	人数	割合
本人	10	2.3%	50	8.2%
妻	50	11.4%	82	13.4%
夫	14	3.2%	7	1.1%
娘	147	33.5%	331	54.3%
息子	38	8.7%	26	4.3%
嫁	139	31.7%	58	9.5%
その他	41	9.3%	55	9.0%
合計	439	100.0%	610	100.0%



要介護者の家族構成

	1982年度		2013年度	
	人数	割合	人数	割合
単身	21	4.8%	178	29.2%
夫婦	67	15.3%	184	30.2%
親と子	70	15.9%	141	23.1%
親と子夫婦	61	13.9%	62	10.2%
三・四世代	193	44.9%	28	4.6%
その他	23	5.2%	17	2.8%
合　計	439	100.0%	610	100.0%



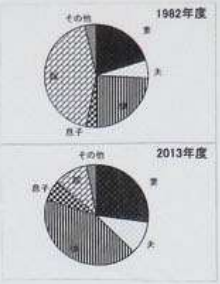
公益社団法人　認知症の人と家族の会　東京都支部作成

電話相談から見える変化　2013 年度

介護者と要介護者の続柄

（在宅介護者なし・入院・入所を除く）

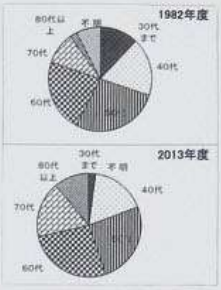
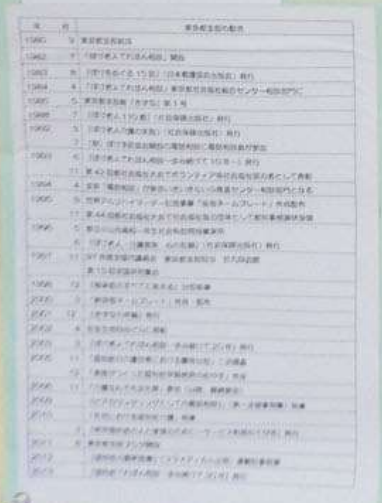
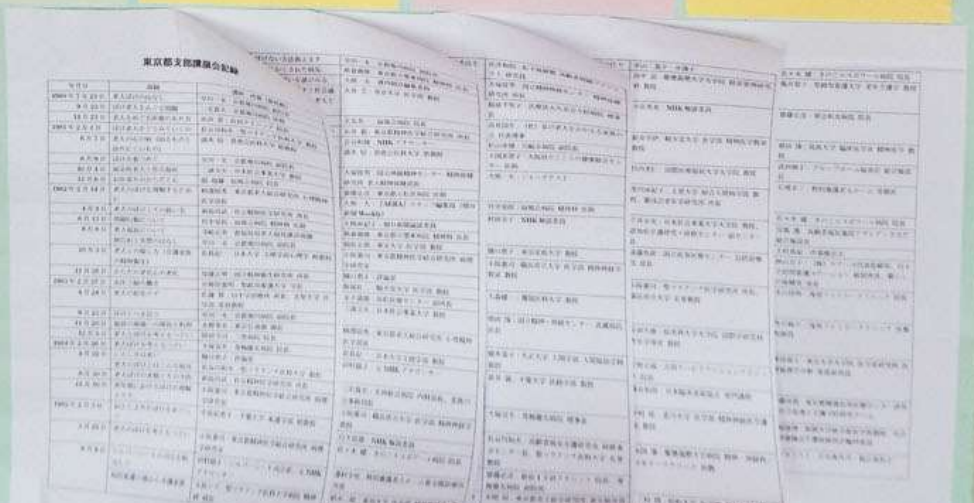
	1982年度		2013年度	
	人数	割合	人数	割合
妻	74	20.2%	93	27.1%
夫	21	5.7%	36	10.5%
娘	88	24.0%	145	42.3%
息子	12	3.3%	23	6.7%
嫁	159	43.3%	36	10.5%
その他	13	3.5%	10	2.9%
合　計	367	100.0%	343	100.0%



介護者の年齢

（在宅介護者なし・入院・入所を除く）

	1982年度		2013年度	
	人数	割合	人数	割合
３０代まで	44	12.0%	7	2.0%
４０代	66	18.0%	59	17.2%
５０代	101	27.5%	87	25.4%
６０代	83	22.6%	92	26.8%
７０代	37	10.1%	60	17.5%
８０代以上	8	2.2%	37	10.8%
不明	28	7.6%	1	0.3%
合　計	367	100.0%	343	100.0%



公益社団法人　認知症の人と家族の会　東京都支部作成